



田中彫刻記

でんちゅうちようこくき

第十九話 ~鏡獅子への挑戦~

かがみじし ちょうせん

Takashi
作 ©いとうたかし



それは、かつて見た歌舞伎座の名優、六代目尾上菊五郎の「鏡獅子」の舞台姿でした。



彫りたいものはもう決めてある…



昭和11年、田中は、日本の伝統彫刻の歴史に残るような大作を作りたいと考えていました。



田中は、公演の初日から25日間、毎日通い続け

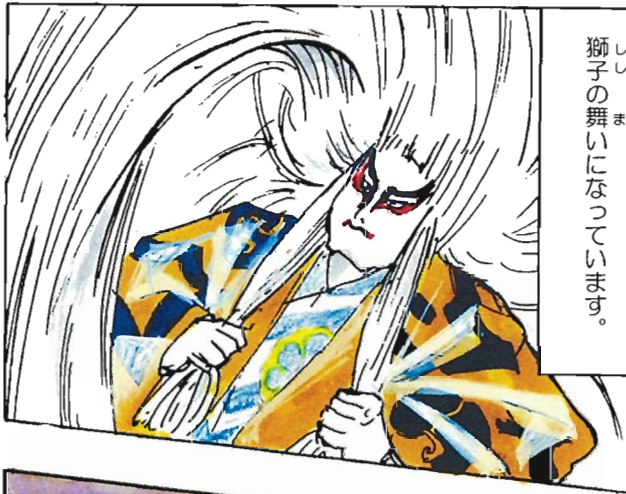


来る日も来る日も、見る位置を変えて熱心に観察しました。



ちよつどその頃、東京の歌舞伎座で、菊五郎の「鏡獅子」が公演されることになりました。

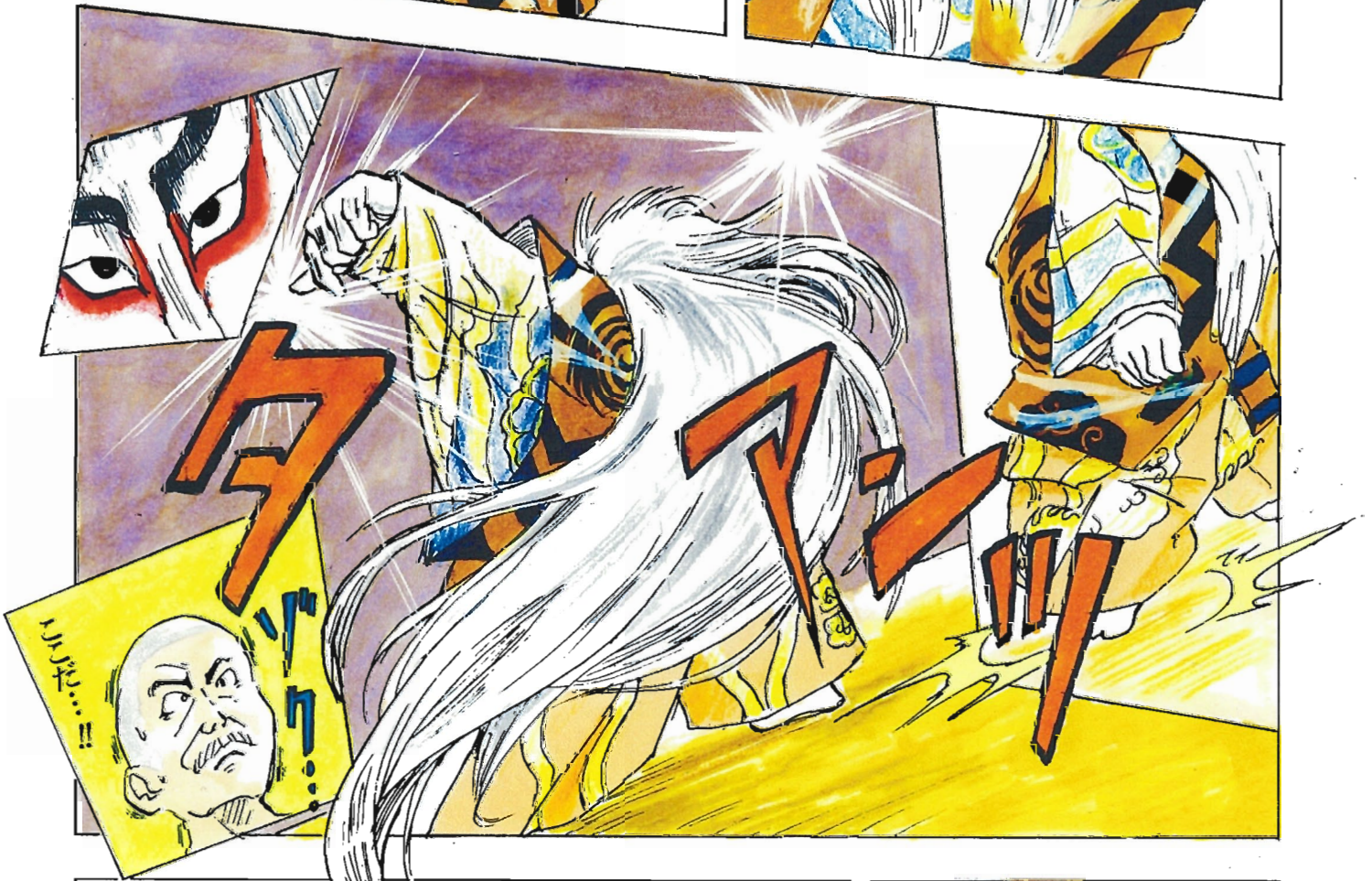




踊りの後半部分は、力強い獅子の舞いになっています。



「鏡獅子」は、三味線などの芝居唄に合わせて踊る舞いで、



田中は、鏡獅子の瞬間のポーズをとらえました。

公演が終わった後、田中は菊五郎に会い、あのポーズを彫りたいという。

菊五郎は喜んでモデルになると言いました。田中64歳の春のことだ。

